

# 中国語の方向複合動詞について

关于汉语的趋向复合动词

濱 口 英 樹

本文首先概述趋向补语。第二节探讨动词后面带趋向补语的动补结构。第三节讨论汉语语法里的“词组”“短语”与一般语言学里的“phrase”的差异。第四节探讨《汉语初级阶段指导手册》中有关动补结构的说明。第五节讨论带宾语的动补结构。指出动补结构在趋向动补结构里的不同功能，即有的可以看做复合动词，有的可以看做连动句。通过这样的分析，可以放弃“趋向补语”这个术语。

## 0. はじめに

中国語の文法では、動詞、形容詞の後ろに置かれる補足的な表現を「補語(complement)」という。そして、“回去”の“回”は動詞であるが、“走回去”の“回”は補語であると言われ、可能補語には結果補語と方向補語が含まれる、つまり、補語の中に補語があるという状況である。別の場所でも述べたことがあるが、筆者はできるならば、中国語教育、中国語文法から「補語」という用語をなくしたいと考えている。本稿では、中国語の方向補語といわれる後項動詞を含む、方向複合動詞を、語彙的複合動詞、連動文という観点から検討し、中国語教育において文法事項の説明が少しでもわかりやすいものとなるよう努めたい。

## 1. 方向補語とは

「東京外国語大学言語モジュール」(<http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/zh/gmod/contents/explanation/049.html> など)には、方向補語に関するものとして以下のような記述がある。

- (1) 単純方向補語“来”は、動詞の表す動作を通じて人・物が基準点に近づくことを、“去”は動作を通じて人・物が基準点から離れることを表す。
- (2) 他明天回来。(彼は明日帰って来る)
- (3) “来”“去”以外に、“上”“下”“进”“出”“回”“过”“起”“到”という単純方向補語があり、“来”“去”以外の単純方向補語は文法上様々な制限を受けるため、実際に使用される動詞との結びつきは限られており、実際には複合方向補語の方を(文法的な制限がないため)多く用いる。
- (4) <動詞+“来”“去”以外の単純方向補語>は通常その後に目的語を伴わないと文が成立しない。

(5a)(5b)のように言うことはできず、補語を複合方向補語にして(6a)(6b)のようにすれば問題はなくなる。

(5) a. \*下课了, 孩子们跑出。

b. \*上课了, 老师走进。

(6) a. 下课了, 孩子们跑出去。(授業が終わり、子供たちは走って出て行った)

b. 上课了, 老师走进来。(授業が始まり、先生が入ってきた)

複合方向補語については以下のような記述がある。

(7) 複合方向補語は、“上”“下”“进”“出”“回”“过”“起”“到”が表す方向と、“来”“去”が表す方向を合わせた方向を表す。例えば“上来”なら、動詞の表す動作を通じて人・物が低い所から高い所へ上り、かつ基準点に近づくという方向を表す。

(8) 电梯坏了, 我们走上去吧。(エレベータが壊れたから、歩いて上がりましょう)

以下のように常用される方向補語の派生義がある。

(9) a. “下来”：固定する、留まる

b. 老师讲的话你都记下来了吗？(先生が話したことはあなたはすべて書き留めたか)

(10) a. “下去”：継続する

b. 那件事他们决定做下去。(その件は彼らはやり続けることに決めた)

複合方向補語の目的語の位置については、目的語が場所を表す語のときは、

(11) a. 目的語は“来”“去”の前

b. 运动员走进比赛大厅去了。(選手は競技場に入って行った)

目的語が移動できる人・物を表す語のとき

(12) a. 未然の出来事の場合→目的語は“来”“去”の前

b. 你拿出本子里来！(ノートを出しなさい)

(13) a. 已然の出来事の場合→目的語は“来”“去”の前でも後でも可

b. 他从房间里搬出一把椅子来。(彼は部屋から椅子を1脚運び出して来た)

c. 他从房间里搬出来一把椅子。(同上)

## 2. 動詞プラス方向補語の構造について

「東京外国語大学言語モジュール」には、「方向複合動詞」についてではないが「結果補語」の解説の中の「複合動詞としてのフレーズ」という項目に以下のような説明がある。

(14) 結果補語は他の補語と同様に「補語」ですから、動詞の直後にくっつけて、動詞と一体化して広い意味での複合動詞を構成します。厳密にはフレーズ(動補フレーズ)ですが、複合動詞なので、全体が目的語を伴ったり、アスペクト助詞“了”や“过”を伴ったりします。

島村 2016: 25は「中国語学界では、述補構造を統語構造と見なす観点が主流であるが、述補

構造の文法単位については、研究者によって見解の相違が見られる」とし、島村 2016: 28において「本書の考察においては、VDをフレーズ語に分類する有用性を見出すことができない。以上の理由から、本書はVDの文法単位をフレーズと見なし、VDを統語構造として扱う」と述べている(VDは「述語動詞+方向補語」)。

呂文华 2008: 202は「欧米の中国語研究者は一般的に動詞プラス方向補語を「語(“词”)」であると見なしている」と述べており、Zou 1994: 443は“Directional verb-compounds(方向複合動詞)”と呼び、Li et al. 1984: 351では“说出来”を「明らかに語(word)」であると見なしている。

柯彼德 1991: 101-102は「補語」は「伝統文法の体系」で範囲が最も広く、最も科学的ではなく、教学において最も運用しにくい概念である…、名称から見れば、「補語」というこの概念は文の成分を示すものである。このため、一切の動詞内の構造に属する成分は「補語」と呼ぶべきではない。これによって「伝統文法の体系」の「結果補語」「方向補語」「可能補語」など3種は完全になくし、動詞構造に属さなければならない。つまり語法構造とみなさなければならず、文法構造とみなしてはいけない」と述べている。

### 3. 中国語のフレーズについて

亀井他編 1996: 306には「句(phrase)」について以下のような記述がある。

- (15) 文の中のいくつかの語がひとまとまりとなって文の成分をなすことがある。これを、句とよぶ。…この句には、句の文中で果たす機能によってさまざまな種類がある。その句全体が名詞の役をすれば名詞句(noun phrase)であり、また、動詞の役をすれば動詞句(verb phrase)である。

中国語学では「フレーズ」という文法用語の概念があいまいであることを濱口 1996: 11-13で指摘したことがある。

朱德熙 1982: 14-15が偏正構造、主述構造というときの「词组(フレーズ)」と刘月华他1988: 10における名詞フレーズ、動詞フレーズなどというときの「短语」とは異なる概念である。前者は内部の語(句)と語(句)の関係に基づいて、偏正構造、主述構造と分類されるものであり、後者は「短语」の文中での機能が、それぞれ名詞、動詞に相当するというように、その外的関係に注目して分類されたものである。したがって刘月华他 1988の「短语」の方が亀井他編 1996における一般言語学の「句(phrase)」に近い概念である<sup>1)</sup>。朱德熙 1982の「词组」は中国語文法独特の概念であり、一般言語学の定義の下「語(word)」と「句」の違いを考える上では基準にすることはできない。

(14)で見た「東京外国語大学言語モジュール」の「厳密にはフレーズ(動補フレーズ)ですが、複合動詞なので…」という理解しにくい説明も、朱德熙 1982: 16の「述补结构」にあたる「動補フレーズ」という用語を用いていることがその理解しにくさの原因であると思われる。

沈力 1997: 19は、以下の(16a)の“寄来”は「語」であるが、(16b)の“寄一封信”あるいは“寄一封信来”は「句」であるという主張をしている。

- (16) a. [VP [V 寄来] 一封信] (一通の手紙を送ってきた)  
 b. [VP [VP 寄一封信] 来] (一通の手紙を送ってきた)  
 (17) a. [VP [V 寄不来] 一封信] (一通の手紙を送ってくるができない)  
 b. \*[VP [VP 寄一封信] 不来]

(17a)が文法的で(17b)が非文法的である理由について、沈力 1997: 20は、中国語には語形成の場合にしか現れない、可能不可能を示す要素“得/不”があり、この“得/不”は合成語には挿入できるが、句には挿入できない。(17a)では“不”が語中に挿入されているため文法的であるが、(17b)では“不”が句中に挿入されているため非文法的であると述べている<sup>2)</sup>。

本稿では、以下で、(16a)の“寄来”のように動詞の直後に方向補語が後接し複合動詞の形になっているものをⅠ型、(16b)の“寄一封信来”のように“寄”と“来”という2つの動詞による動詞句の形になっているものをⅡ型と呼び議論を進めて行く。

#### 4. 中国語初級段階指導ガイドラインの扱い

中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会(以下、委員会) 2007: 6には、「主述連語」「補足連語」と、やはり、朱徳熙 1982と同様の概念による「連語(句、フレーズ)」の分類が見られる。「補語」については、委員会 2007: 11には

- (18) 英文法における補語と混同することも考えられるので、英語の補語とは異なることを示すため、後置する修飾成分として説明する。ただし、結果補語などにおいて“喝醉”“学会”のように補語の部分が必ずしも動詞の修飾成分とはいえない構成となる例も少なくない。

「結果補語」については、同じく委員会 2007: 11に

- (19) 入門段階で学ぶ結果補語の多くは動詞と補語の結びつきが熟語化しているので、一定量の動補連語を学ぶまでは、補足型の複合動詞としてあつかう。

「方向補語」についても、同じく委員会 2007: 11に

- (20) 方向補語の説明では、わずかな用例から、方向補語のすべてを列挙することは避け、入門段階では個別の複合動詞としてあつかう。

と、「結果補語」「方向補語」については、共に「複合動詞としてあつかう」とされている。このような記述を見ると、「結果補語」「方向補語」に限って言えば、入門段階では「補語」という用語は不要であり、(18)のような「補語」についての「英語の補語とは異なることを示すため、後置する修飾成分として説明する」という説明も必要ないのではないかと思えてくる。

## 5. 動補フレーズや複合動詞とその目的語

### 5.1 動補フレーズと目的語

島村 2016: 77は“过来”を述補構造であり、フレーズであるとし、島村 2016: 176では「VDのDが複合方向補語である場合、その後方に目的語を従える…」、島村 2016: 192では「方向補語としての“来/去”は…目的語を従える…」と補語が目的語を従えるという表現がある。そして、方向補語の前後に現れる場所を表す名詞を「後置式のL(場所名詞)」とも呼んでいる(島村 2016: 220)。丸尾 2014: 1 及び119は“V上”を動補構造と呼び、“过去”を動補フレーズと呼び、以下の(21)の“那边”を「目的語」と呼んでいる。

(21) 过那边去。(あちらに行く)

委員会 2007: 11では、方向補語の前後に現れる、つまり、I型の複合動詞の後、II型の2つの動詞の間に生じる名詞(句)について、「方向補語と動詞に対する賓語の位置」という言い方がなされている。

動詞プラス方向補語が動補フレーズだとすると、以下の(22)の例では、朱德熙 1982: 68などで“动词后缀(動詞接尾辞)”と言われている“了”が、フレーズにも後接することとなってしまう動詞接尾辞の整合性という点では非常に問題が多い。

(22) 他游出了世界纪录。(彼は水泳で世界記録を出した)

荒川 1989: 13、杉村 2000: 153-157、中根 2008: 159では、以下の(23a)のように方向動詞“上”は、単独では述語として文を構成することができず、統語上非自立的であることから、拘束形式(bound form)であるとされている。上記(4)の制約もこの非自立的ということがその理由である。

(23) a. \*小王上了。

b. 小王上楼了。(王君は上の階に上がった)

c. 小王上来了。(王君は上がってきた)

Chao 1968: 361では、片方が拘束形式(bound form)であれば、全体の構造は、もちろんフレーズになることはないとされている。

### 5.2 複合動詞と目的語

動詞プラス方向補語を複合動詞と考え、動詞と方向補語の間に名詞句が入り込むII形の方が問題となる。

中国語では以下の(24)(25)のように複合語の中にアスペクトマーカ―や名詞句が生じることはない(Huang 1984: 66、沈力 1997: 98、Paul 2005: 18)<sup>3)</sup>。

(24) a 他批评了张三。(彼は张三を批判した)

b \*他批了评张三。

- c \*他批了张三评。
- (25) a 他吃完了晚饭。(彼は晩御飯を食べ終えた)
- b \*他吃了完晚饭。
- c \*他吃了晚饭完。

以下の(26)で“送来”を複合動詞と考えると、複合語の間にアスペクトマーカ、名詞句が生じるということになってしまう。

- (26) 他送了一个箱子来。(彼はスーツケースを1つ送ってきた)

Law 1996: 203、Paul 2005: 19は(26)の例は連動文(Serial Verb Construction)であり、以下の(27)は、“来”が前方に移動した結果“送来”が複合動詞を形成しているものであるという分析を提示している<sup>4)</sup>。

- (27) 他送来了一个箱子。(彼はスーツケースを1つ送ってきた)

先に見た(16b)の沈力 1997: 19の分析、本稿でいうII型も連動文であるという解釈が可能である。また、荒川 2015: 187(もとは1988年に書かれた論文)には、以下のように、動詞プラス方向補語の間に目的語が生じる形は、連動文として分析されなければならないという記述が見られる。

- (28) つまり、“上楼去”“回家去”は“上去”“回去”の間に“楼”や“家”という場所目的語が入ったものではなく、“上楼/去”“回家/去”と分析されるべきものなのである。

Zhang 1991: 43は以下の(29a)(29b)では、“端”“上”“来”は(意味上の)主語が異なると述べている。

- (29) a. 他端上来了一碗汤。(彼はスープを食卓に出した)
- b. 他端上一碗汤来了。(彼はスープを持って上がって来た)

(29a)の“端”の主語は“他”であるが、“上”と“来”の主語は“汤”であり、“端上来”は1つの動詞のように振る舞う。(29b)では、“端上”と“来”は別々の動詞である。“端”と“来”の主語は“他”であり、“上”の主語は“汤”であると述べている。(29a)は本稿でI型に、(29b)は本稿でII型に分類されるものである。

叶利中の相声『上饭馆儿』に以下のような場面がある。

- (30) 等会儿菜端上来啦，您吃得差不多啦，他额外给您端上一个来。什么菜呀？粉条拌白菜。(しばらくして料理が運ばれてきた。そろそろお腹いっぱいという時、彼(店員)が特別にあなたのために(料理を)1つ運んで上がってきた。何の料理だ？春雨と白菜の和え物)

“端上来”の方は“菜”がただ単に運ばれてきたことを述べている。“端上一个来”の方は、「頼んでもいない料理を持って件の店員が下の階の厨房から料理を持って上がって来た」と動作主の店員と運ばれてきた料理の両方に焦点を当てた、両方をプロファイルした表現であるということができ、それがこの相声の面白さにつながっている。

上記(13)で見たように、中国語教育では、「目的語は“来”“去”の前でも後でも可」とされ

る。ただ単に目的語の位置が変わっただけなのであろうか。もしそうだとしたら、これまでのような「方向補語」という扱いで良いかもしれない。しかし、目的語の位置が変わり、動詞が表す意味も違ってくるとなれば、Ⅰ型を複合動詞として、Ⅱ型を連動文として扱うことも必要なのではないだろうか。

## 6. おわりに

中国語の教学では「方向補語」とまとめて扱われるⅠ型、Ⅱ型が似て非なるものであるのかどうか、異なるとすれば一体それは何物なのか、複合動詞、連動文という観点から検討を行った。

Ⅱ型の後の方の動詞が、前に移動してⅠ型の複合動詞を形成するという分析についても触れたが、方向複合動詞は統語的複合ではないと考えている。方向補語は結果補語の下位分類として扱われることもあるが、方向複合動詞と結果複合動詞は、方向複合動詞には場所成分との一体性があるということ1つ取っても全く別ものである。結果複合動詞が統語的複合であることは濱口 2017で示した。方向複合動詞は、結果複合動詞ほど生産性が高くない、方向複合動詞は虚化が進んでいる、常用される派生義がある、などから語彙的複合であると考え理由は十分にある。また、影山 1993では、複合動詞の形成レベルは語彙的であることがデフォルトとされている。

教学の上から言えば、方向複合動詞が語彙的複合であるならば、1つ1つの方向複合動詞を、刘月华 1998のような形で辞書に登録し、1つの単語として扱っていく必要がある。

### <注>

- 1) 刘月华他 1988: 11のフレーズには、名詞フレーズや動詞フレーズとは全く異質の主述フレーズが含まれており、亀井他編 1996における一般言語学の「句(phrase)」と同一の概念であるということとはできない。
- 2) 朱德熙 1982: 13は、沈力 1997とは逆に、「放下」「穿上」等では、構成素が緊密に結合しており、これらを合成語と見なす文法書もある。しかし、この種の形式は、“得”あるいは“不”を挿入して一定の拡張が可能であるため、本書ではこれらをフレーズとして扱う」と述べている。
- 3) 影山 1993: 10には、「語の内部から排除される要素で複合語の判別にとりわけ有効なのは格助詞と時制屈折である。「雨が降った」の「が」と「た」がそれぞれであり、これらの要素が存在すると、語ではなく句になる。「雨降り」が複合語として認定できるのは、アクセントや意味の面でまとまりを成すということの他に、助詞と屈折を含まないという形態的な特徴があるからである」と述べられている。
- 4) 芝垣 2014: 368には、中期中国語以降、音韻的簡素化が生じ、その簡素化と並行して通時的な2音節化が進んだ。本稿のⅡ型からⅠ型のような動詞の複合化はこの音韻的原因によるものであると述べられている。

### <参考文献>

荒川清秀 1989. 「補語は動詞になにをくわえるか」, 『外語研紀要』 13: 115-124頁。

- 荒川清秀 2015. 『動詞を中心にした中国語文法論集』。東京：白帝社。
- 中国語教育学会学力基準プロジェクト委員会 2007. 「中国語初級段階学習指導ガイドライン」.[Online]. Available: <http://www.jacle.org/storage/guideline.pdf> [Accessed: 2017/8/11].
- 濱口英樹 1996. 「中国語の節と文の構造について」, 『中国語学』 243号, 11-16頁。
- 濱口英樹 2017. 「中国語の結果複合動詞について」, 『関西大学外国語教育フォーラム』 16号, 23-32頁。
- 影山太郎 1993. 『文法と語形成』。春日部：ひつじ書房。
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 1996. 『言語学大辞典』 第6巻(術語編)。東京：三省堂。
- 丸尾誠 2014. 『現代中国語方向補語の研究』。東京：白帝社。
- 中根綾子 2008. 「移動事態を表す V<sub>x</sub> 句と V 到句の意味と形式」, 『中国語学』 255: 157-176頁。
- 刘月华・藩文娛・故韡 1983. 『現代中国語文法総覧(上)』(片山博美・守屋宏則・平井和之訳, 東京：くろしお出版, 1988年.)
- 芝垣亮介 2014. 「中国語の連動詞構文における意味と構造」, 『複雑述語研究の現在』: 367-388頁。東京：ひつじ書房。
- 島村典子 2016. 『現代中国語の移動を表す述補構造に関する研究』。東京：好文出版。
- 沈力 1997. 「現代中国語の動詞構造の研究—語形成と句形成の平行性を中心に」, 博士学位論文：京都大学。[Online]. Available: <http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/160714> [Accessed: 2017/8/11].
- 杉村博文 2000. 「走进来について」, 『荒屋勸教授古希記念中国語論集』: 151-164頁。東京：白帝社。
- 柯彼德 1991. 「汉语作为外语教学的语法体系急需修改的要点」, 『第三届国际汉语教学讨论会论文集』, 99-104頁。北京：北京语言学院出版社。
- 刘月华 1998. 『趋向补语通释』。北京：北京语言大学出版社。
- 吕文华 2008. 『对外汉语教学语法探索』。北京：北京语言大学出版社。
- 朱德熙 1982. 『语法讲义』。北京：商务印书馆。
- Chao, Yuan-Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Huang, C.-T. James. 1984. Phrase Structure, Lexical Integrity and Chinese Compounds. *Journal of Chinese Teacher's Association* 19-2: 53-78.
- Law, Paul. 1996. A Note on the Serial Verb Construction in Chinese. *Cahiers de Linguistique-Asie Orientale* 25-2: 199-235.
- Li, Y. C, Robert L. Cheng, Larry Foster, Shang H. Ho, John Y. Hou, and Moira Yip 1984. *Mandarin Chinese: A Practical Reference Grammar for Students and Teachers*(Vol.1). Taipei: The Crane Publishing Co.
- Paul, Waltraud. 2005. The “Serial Verb Construction” in Chinese: A Gordian Knot. *Proceedings of the Workshop La Notion de «Construction Verbale en Série» Est-elle Opératoire?* [Online]. Available: <http://crlao.ehess.fr/docannexe/file/1543/svcfinalversionoct2005.pdf> [Accessed: 2017/8/11].
- Zhang, Bin. 1991. *Serial Verb Constructions or Verb Compounds? —A Prototype Approach to Resultative Verb Constructions in Mandarin Chinese*. PhD dissertation, Ball State University.
- Zou, Ke. 1994. “Directional Verb-Compounds in Chinese,” *Proceedings of the 30th Annual meeting of the Chicago Linguistic Society*. Vol.1: 443-457. Chicago Linguistic Society.